「自由と繁栄の弧」形成と政府開発援助について

平成19年5月
外務省

1. 「自由と繁栄の弧」とは

(1) 平成18年11月、麻生大臣は政策スピーチにおいて、日米同盟の強化、国際協調、近隣諸国との関係強化という従来の日本外交の柱に加えて、「普遍的価値」を重視しつつ、「自由と繁栄の弧」を形成することを新たな日本外交の柱として位置づけ、外交の新機軸として打ち出した。

(2) 具体的には、北欧諸国から始まって、バルト諸国、中・東欧、中央アジア・コーカサス、中東、インド亜大陸、さらに東南アジアを通過して北東アジアにつながる地域において、自由、民主主義、基本的人権、法の支配等「普遍的価値」を基礎とする豊かで安定した地域、すなわち「自由と繁栄の弧」を形成していこうとするもの。

(3) 我が国はこれら「自由と繁栄の弧」に位置する諸国とともに駆けるランナーとして、幅広い外交努力を通じ、対話と支援を行っていく考え。

2. 「自由と繁栄の弧」とODA

我が国は、教育・保健といった基礎的生活分野での支援、民主化定着のための支援、インフラ・法制度整備のための支援などODAを活用した支援等を通じ、自由で繁栄した社会を実現し、「自由と繁栄の弧」を形成していく。

(了)